

聴力の低下を早く発見することで、適切な治療や教育的な配慮ができるようになります。ご心配がある場合には、以下の機関へご相談ください。

新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関

- 北海道大学病院 耳鼻咽喉科(完全紹介制)  
〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目
- 札幌医科大学附属病院 耳鼻咽喉科  
〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291 ☎611-2111 (内線3515)
- 北海道立子ども総合医療・療育センター(コドモックル) ※電話で予約  
〒006-0041 札幌市手稲区金山1条1丁目240番6 ☎691-5696 Fax691-1000
- 耳鼻咽喉科 麻生病院  
〒007-0840 札幌市東区北40条東1丁目1-7 ☎731-4133 Fax731-4986
- 厚別耳鼻咽喉科病院  
〒004-0065 札幌市厚別区厚別西5条1丁目16-22 ☎011-894-7003 Fax 011-894-7005
- とも耳鼻科クリニック  
〒060-0061 札幌市中央区南1条西16丁目1-246 ANNEXレーベンビル2F ☎011-616-2000 Fax 011-616-2180

子どもの聞こえについて相談できる専門の教育機関 ( )内は担当区/相談は無料です。

- |                     |                                                                                     |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 全年齢                 | ○北海道札幌聾学校(全市) ※乳幼児の教育相談も受けます<br>〒001-0026 札幌市北区北26条西12丁目 ☎716-2979 Fax758-7617      |
| 小学校<br>幼児の教育相談も受けます | ○札幌市立中央小学校 きこえの教室(手稲・西・中央・南区)<br>〒060-0041 札幌市中央区大通東6丁目12 ☎241-2533 Fax261-5723     |
|                     | ○札幌市立幌北小学校 きこえの教室(北区)<br>〒001-0019 札幌市北区北19条西2丁目 ☎747-6797 Fax716-0944              |
|                     | ○札幌市立南郷小学校 きこえの教室(豊平・清田・白石・厚別区)<br>〒003-0024 札幌市白石区本郷通4丁目南3-1 ☎863-0863 Fax861-9527 |
| 中学校                 | ○札幌市立元町小学校 きこえの教室(東区)<br>〒065-0025 札幌市東区北25条東17丁目 ☎781-2194 Fax783-8101             |
|                     | ○札幌市立中央中学校 きこえの教室(北・東区を除く全市)<br>〒060-0034 札幌市中央区北4条東3丁目 ☎241-5080 Fax241-6359       |
|                     | ○札幌市立北辰中学校 きこえの教室(北・東区)<br>〒001-0018 札幌市北区北18条西2丁目 ☎716-6201 Fax716-4172            |

さらに詳しいことは、当会のホームページをご覧ください。  
この資料(PDF)を、ホームページからダウンロードすることもできます。

URL <http://kodomonokikoe.net>



◀携帯でも見ることができます。

この資料は、「さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会」が発行しています。  
問い合わせ先 札幌市立中央小学校きこえの教室 ☎241-2533

[平成30年(2018)2月]

# 聞こえているように見えても 聞こえにくい、難聴のある子どもたち

## 軽度難聴や片耳難聴がある子どもへの理解と支援のために

「難聴」とは、聴力がある程度低下し、音が聞こえにくい状態をいいます。その程度が軽度の場合、まわりの人がその人の聞こえにくさに気づかない場合があります。

子どもに軽度の難聴がある場合、家族や本人も気づかず、発見が遅れたり、発見されても大きな問題と見なされないことがあります。

本資料では、軽度難聴や片耳難聴のある子どもが、まわりの人々から理解されよりよく支援されることを願い、次のことを説明しています。

- ・子どもの暮らしに生じる困難さ
- ・子どもの成長への影響
- ・支援のあり方
- ・難聴にかかわる基礎知識



大人から見て、聞こえている、分かっていると見えても、聞き違えているかもしれません。分からなくて困っているかもしれません。

発行 さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会  
編集 札幌市立学校 きこえの教室

## （子どもの暮らしに生じる困難さ）

子どもに軽度難聴等がある場合、会話音の一部は聞こえても、一部は聞こえないという困難さがあります。それでも本人は理解しようと気持ちを集中して聞いたり、口の動きを見たり、話の前後関係から聞き取れなかった部分を推測して理解しようと努力をします。その結果、状況によっては理解できる場合がありますが、状況によっては理解できなかつたり、聞き間違えてしまう場合もあります。

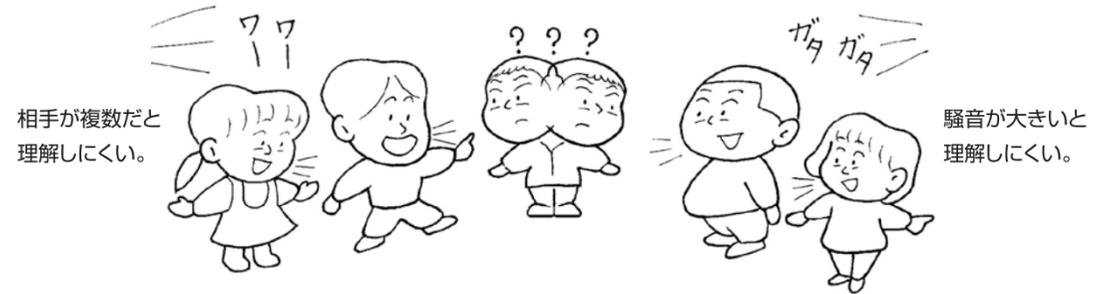
例えば、以下のような場合です。  
しかも、理解できる場合があるため、まわりの人から見ると「聞こえている」と「誤解」をされることがあります。会話が理解しにくいという困難さがある上に、「その困難さがまわりの人々に理解されにくい」という困難さが重なります。



静かな場所で、1対1の会話で、日常的な内容であれば、会話が理解できる。しかし……少し離れただけで聞こえなくなる。



口の動きが見えないと理解しにくい。初めて聞くことばは理解しにくい。



騒音が大きいと理解しにくい。

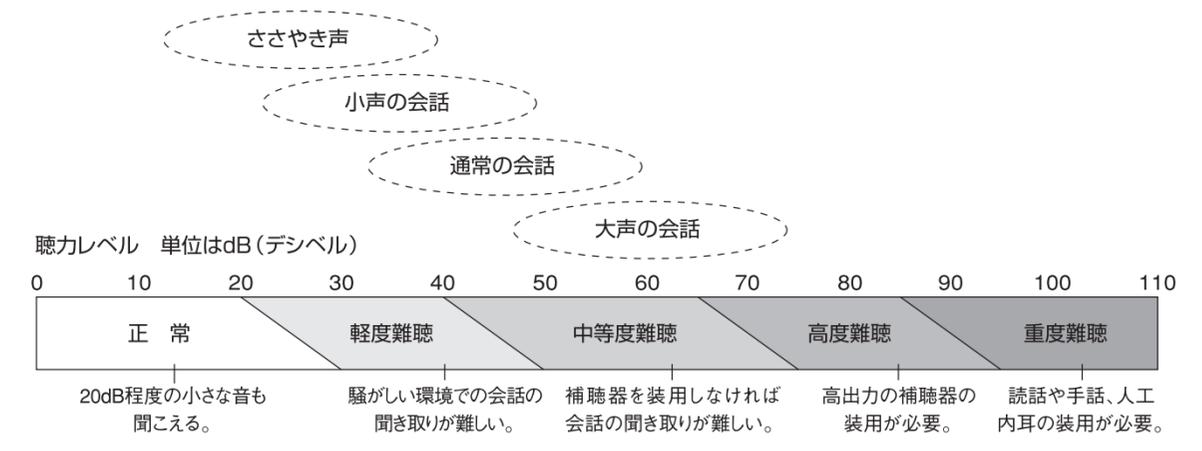


不安になると聞いてもらえない。

- ・声大きいと聞こえやすいが、小さいと聞こえにくい。
- ・距離が近いと聞こえやすいが、離れると聞こえにくい。
- ・静かな場所は聞こえやすいが、周囲の騒音が大きいと聞こえにくい。
- ・聞こえる耳の側は聞こえやすいが、聞こえない耳の側は聞こえにくい。
- ・ゆっくりした話は理解しやすいが、早口の話は理解しにくい。
- ・話し手の口の動きが見えると理解しやすいが、見えないと理解しにくい。
- ・知っていることばは理解しやすいが、初めて聞くことばは理解しにくい。
- ・話題がつかめると理解しやすいが、話題がつかめないと理解しにくい。
- ・相手が一人だと理解しやすいが、相手が複数だと理解しにくい。
- ・相手が大人だと理解しやすいが、相手が子どもだと理解しにくい。
- ・本人が聞こうとしている時は聞けるが、集中力が切れると聞けなくなる。
- ・本人が安心できる場面では聞いてもらえるが、不安な場面では聞けなくなる。

補聴器や人工内耳をつけている子どもたちにも同じような困難さがあります。

聴力レベルが40dB（デシベル）以上の中等度難聴や高度難聴のある子どもたちも、補聴器の調整がうまくいっている場合には、補聴器を通して聞くときの聴力レベルが30～40dBになり、会話音の一部が聞こえるようになります。  
また、聴力レベルが100dBを超える重度の難聴がある子どもも、人工内耳を通して聞く時の聴力レベルが30～40dBになり、会話音の一部が聞こえるようになります。ちょうど、軽度難聴のような状態になります。  
そのために、「補聴器をつけているから聞こえている」と「誤解」されることがあります。これらの子どもたちにも、軽度難聴等のある子どもたちと同じように、「まわりの人から聞こえにくさを理解されにくい」という困難さがかかえています。



## （子どもの成長への影響）

子どもに軽度難聴や片耳難聴がある場合、ことばが曖昧に聞こえているため、よく知っていることばは聞いてなんとか理解できますが、初めて聞くことばは理解できなったり、聞き間違えたりします。

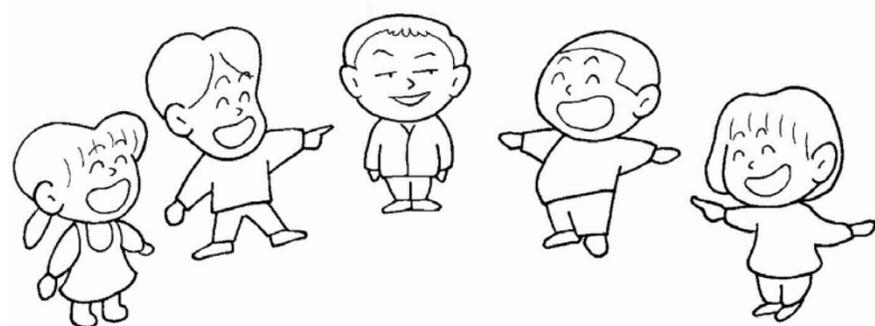
新しいことばや知識を学習する時期にある子どもにとって、このことは大きな問題で、適切な支援がないと、学業の問題に発展する場合があります。



子どもに軽度難聴や片耳難聴がある場合、騒音下で会話を聞き取れなかったり、相手が複数で次々と変わるような場合には理解できなったりしますので、幼稚園や学校等の集団場面では会話を理解できないことがあります。

人間関係を学習する時期にある子どもにとって、このことは重大な問題で、適切な支援がないと、交遊関係や集団適応の問題に発展する場合があります。

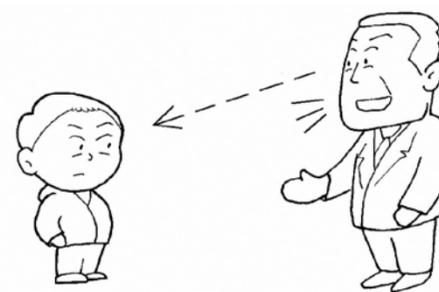
「みんなどうして笑ってるの？」



## （支援のあり方）

聞こえにくさで困っている子どもを支援するためには、まずその子が聞こえなくて困っている様子や、わからなくて困っている様子に気づくことが大切です。その子の聞こえにくさの特徴を理解した上で、状況に応じて子どもがわかるようになる支援を工夫していきます。

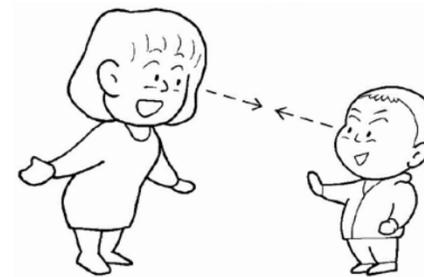
例えば、以下のような配慮です。



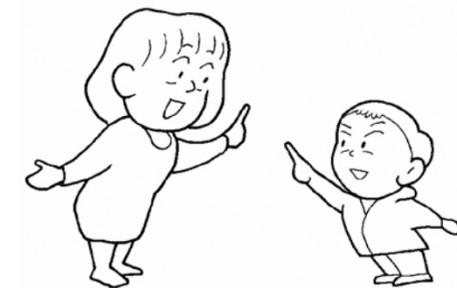
子どもの表情を見ながら、声の大きさや、話す速さを加減する。



まわりがうるさかったら少し近づいて話しかける。聞こえる耳の方から話しかける。



いきなり話しかけないで、目が合ったときに、話しかける。



わからない顔をしたら、繰り返して話しかける。

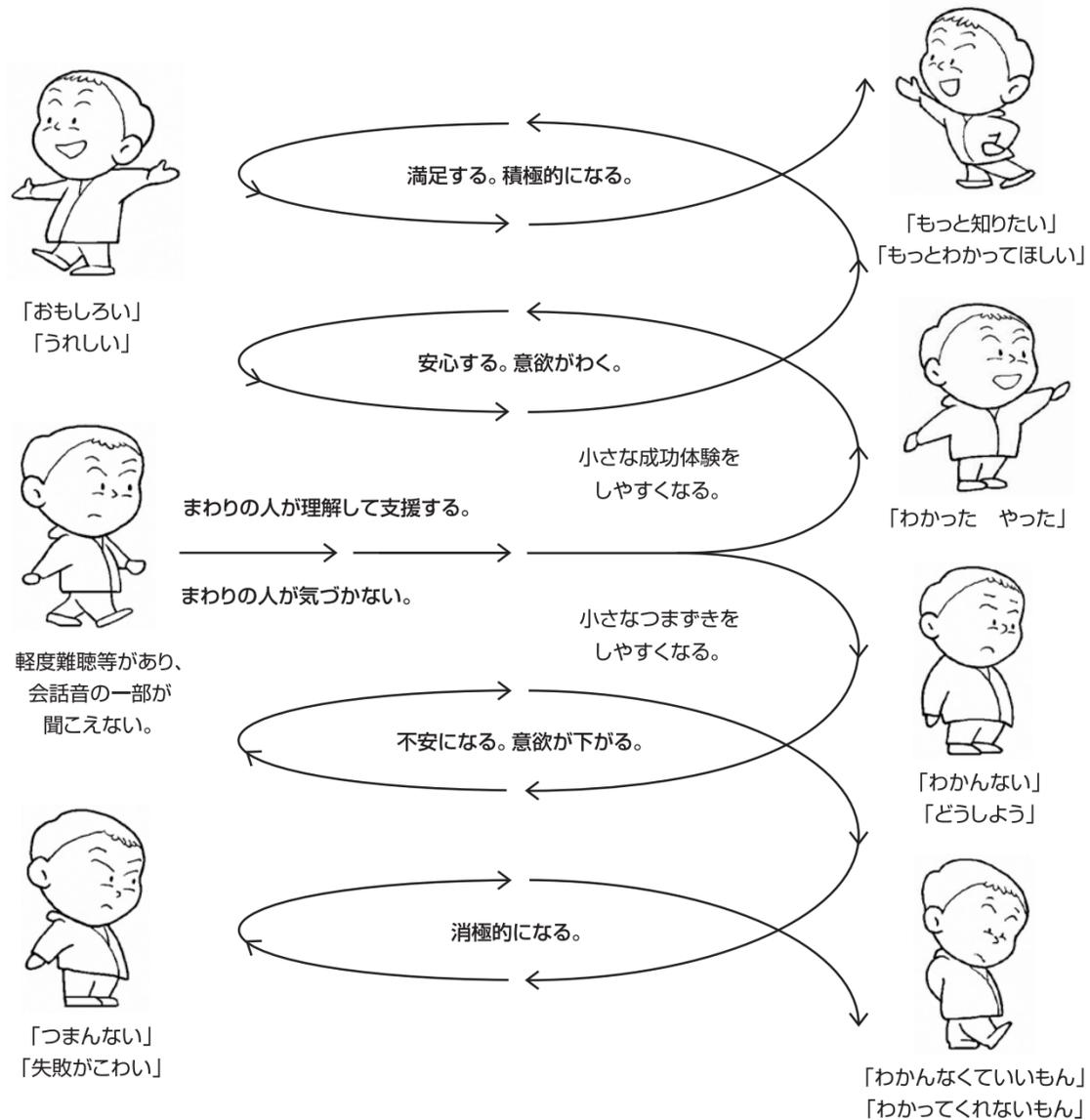


固有名詞や難しいことばは、書いて見せる。



子どもを仲間に引き込み、ひとりぼっちにしない。

まわりの人々の適切な支援によって、人の話がわかった体験や、人にわかってもらえた体験を積み重ねることによって、「もっと知りたい、もっとわかってほしい」という意欲が育っていきます。成功体験・満足感・意欲・積極性・成功体験・という「よい循環」が始まると、聞こえにくさを乗り越えて成長していくことができます。



まわりの人が聞こえの問題に気づかず適切な支援ができないと、子どもは新しいことばを獲得できなかったり、集団での会話に参加できなかったりと、小さなつまずきをしやすくなります。それらが繰り返されると、不安になり、意欲がわかなくなり、消極的になる恐れがあります。自我の成長や社会性の成長に影響を及ぼす場合もあります。

## （ 難聴にかかわる基礎知識 ）

聞こえにくさが疑われる場合には、難聴を専門とする耳鼻科医を受診し、聞こえにくさの程度やその原因について診断をしてもらうことが大切です。

治療による改善が見込める場合には、適切な治療を受けることが重要になります。

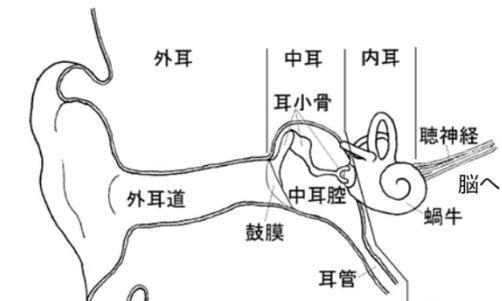
治療による改善が見込めない場合にも、聴力が現状より低下しないように、定期的に難聴を専門とする耳鼻科医を受診することが望まれます。

子どもがかかりやすい中耳炎によっても、聴力が一時低下します。ことばを獲得する時期である幼児期には、一時的な難聴でも、ことばの発達に影響することがあります。

また、中耳炎を繰り返すことにより、慢性的な難聴になる場合もあります。

中耳炎を軽く考えないで、早期にしっかり治療することが大切です。

### 難聴の種類



この範囲の疾患で起こる難聴を  
伝音難聴といいます。

この範囲の疾患で起こる難聴を  
感音難聴といいます。

#### 伝音難聴

- ・外耳道の疾患による難聴
- ・鼓膜の疾患による難聴
- ・耳小骨の疾患による難聴
- ・鼓室・耳管の疾患による難聴

#### 感音難聴

- ・先天性感音難聴
- ・騒音性難聴
- ・ウイルス感染による難聴
- ・メニエール病による難聴
- ・薬物による難聴
- ・突発性難聴

補聴器は効果があります。ただし・・・

最近では、うるさく感じない音質の良い補聴器が販売されるようになったため、軽度難聴のある子どもの場合にも、補聴器の効果期待できるようになりました。ただし、軽度難聴のある子どもの中には、補聴器をつける必要感が弱かったり、逆に抵抗感があったりして、すぐにつけることが難しい場合もあります。

「軽度難聴だから補聴器は必要ない」と考えるのでもなく、「すぐに補聴器をつけさせよう」と決めてかかるのでもなく、「もっとみんなの話を聞きたい」と思う子どもの気持ちを育てながら、時間をかけて補聴器の装用を検討していくことが大切です。